

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

175号 2016年5月29日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「キリストの日に備えて」

——フィリピの信徒への手紙第1章9～11節——

牧師 渡邊 義彦



わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられることのない者となり、イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるように。(新共同訳聖書)

聖書には、旧約聖書、新約聖書、66の書物が並んでいます。66の書物の並び方は、厳密な意味での時代順ではありませんが、創世記の世界の創造から、ヨハネ黙示録の世界の終わり、神の国の完成までをほぼ時間を追って読むことができます。

旧約聖書は、アダムにはじまる人間救済の歴史が、まずひとつの民、イスラエルの民において明らかにされてゆくこと、神の民イスラエルの救いの歴史を記してゆきます。旧約聖書は、神が約束くださった土地に、神の民イスラエルが国を建ててゆくさまを伝え、ユダヤの地に建国されたこの国が滅び灰燼に帰したことを伝えます。そして、国が崩れ去った灰の中からイスラエルが再び国を建て上げ

てゆくところ、再建の道筋を示して旧約聖書は、いったん記述を終えます。エズラ、ネヘミヤ、バビロン捕囚後にエルサレム再建に力を尽くした人々について記したところでいったん旧約聖書は書物を閉じます。

このところから、新約聖書に至るまで約400年ほどを旧約聖書は何も記していません。聖書の中で、唯一、この空白の期間について記しているのは、新約聖書の中の二つの系図だけです。マタイ、ルカの系図は、イスラエルがバビロンの捕囚から解放されてユダヤの地に帰還し国の再建にあたった人々の名前を記して、捕囚から解放後の人々のつながりが主イエスの誕生につながっていることを聖書の中で唯一告げているものです。

新約聖書に記されている、この二つの系図を連結器のようにして新約聖書の歴史がはじまります。歴史を、紀元前と紀元後に分けるところに立っておられる主イエスのことを記す福音書からはじまって、新約聖書は、キリスト誕生後、主の年、A. D. (アノ・ドミニ) 第1世紀、キリスト教会の伝道を記していません。新約聖書は1世紀の教会の伝道から、最後に一挙に27番目の書物、ヨハネ黙示録で歴

史の終わりの日の出来事を記すまで飛んでゆきます。聖書のダイナミックなところです。

わたしたちは、時間ごとにときを追って生きています。わたしたちは時間順に生き、成長し、年を重ね老いてゆきます。この時間の中を生きているわたしたちに、聖書が記し伝えることは、時間の中のことでありながら信仰において希望し望み見ていることが時間を飛び越えてしまうのだ、ということです。今という限られた時間を生きながら、時間の順序を飛び越えて一挙に終わりを望み見ます。聖書が終わりの日のことを告げてくれているので、わたしたちは信仰において約束されている命を希望することができます。希望が本物であるので、なおわたしたちは今を生きる力と支えをいただくことができます。

悲慘が起り続けてきた今のつながりです。ひとときとしてこの歴史の中から涙が拭われたことはありませんでした。いつもわたしたちは悲慘を被り、悲慘を起こしてきました。しかし、この悲慘の中で、教会は希望を失いませんでした。わたしたちがこれから歩んでゆく前方、未来にあることも、わたしたちがこれまで歩んできた後方、過去にあることも、今という、この時を生きるわたしたちを生かしてくれる本当の力となるのです。二千年前、エルサレムで起こった十字架の救いの出来事が、そして、聖書の中に脈々と流れてきた救いの約束と救いの御業が、そして、そもそもわたしたち人間が、この世界が造られたそのはじまりにあった、神が、人間を、世界をお造りなると決断された御意志が、今も変わら

ずにあるのです。これから歴史が向かう先においても神の救いの御意志は変わることがありません。歴史の真ん中、最初の契約である旧約が、新しい契約としての新約へと移るところにおいて、エルサレムに立てられた十字架により果たされた救いがますます明らかになってゆきます。終わりの日には、救いは既にあの十字架によって完成していたのだということが、すべての人々に明らかになります。

歴史は、はじまりから、終わりに向かって、一方向に流れ進んでいます。同じところに戻ったり、同じことを繰り返したりということではありません。同じ春を迎え、夏秋冬を迎えても、一年前の春とは違います。去年の夏、秋、冬とは違います。時間は、終わりの完成に向かって確実に一年ずつ進んでゆきます。移り変わってゆく時間の中で、神の救いの御意志が決して変わらないことを聞き、天の国へ旅を続ける者たちは励ましを与えられます。この旅をひとりで続けるのではなく兄弟姉妹が共に歩んでいることを知ります。同じ神の言葉に養われる兄弟姉妹たちです。同じ目標、同じ目当てを目指して歩んでいる兄弟姉妹たちです。そして、主が、神の民の旅路に、どのようなときにも、どのようなことがあろうとも共にいてくださることを知ります。

キリストが再びお出でくださる日に備えて、キリストがわたしたちの人生に洗礼を授けるという仕方で臨んでくださり、大きな歴史に人として生まれてくださるという仕方で臨んでくださったことを忘れることなく歩む幸いを思います。

☆☆☆教会の行事・あったこと、これからあること☆☆☆

◇3月27日(日)10:00~復活日(イースター)礼拝。

午後、竹内神学生が、4月より担任教師として四国の芸西伝道所へ赴任されるので、その送別会を兼ねた愛餐会が行われました。



渡邊先生

挨拶する竹内先生

松下先生

プレゼントを贈る教会の子供たち

◇5月15日(日)聖霊降臨日礼拝。 イエスの弟子たちが集まっているところに聖霊が降り、霊が語らせるままに、イエスは救い主と、様々な言語で話し出しました。聖霊降臨日は教会の誕生日とも言われます。

2016年6月 柿ノ木坂教会 伝道月間

わたしたちの教会では6月伝道月間に、毎日曜日、特別伝道礼拝を献げます。
日曜ごと、礼拝のため立てられる説教者たちが、祈りをもって聖書の御言葉を取り次ぎ語ります。
キリスト教、教会に関心のある方、はじめてでありましてもご出席くださり、ぜひ礼拝をご一緒ください。

<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">6/5</div> <div style="font-weight: bold;">(日)</div> <div style="font-size: 0.8em;">AM 10:30~</div>		<p style="text-align: center; font-weight: bold; margin: 0;">説教「あなたを決して忘れない」</p> <p style="text-align: right; margin: 5px 0 0 0;">日本基督教団 柿ノ木坂教会牧師 渡邊 義彦 牧師</p>
<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">6/12</div> <div style="font-weight: bold;">(日)</div> <div style="font-size: 0.8em;">AM 10:30~</div>		<p style="text-align: center; font-weight: bold; margin: 0;">説教「うめきの中に働く神の助け」</p> <p style="text-align: right; margin: 5px 0 0 0;">東京神学大学名誉教授 日本基督教団銀座教会協力牧師 近藤 勝彦 牧師</p>
<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">6/19</div> <div style="font-weight: bold;">(日)</div> <div style="font-size: 0.8em;">AM 10:30~</div>		<p style="text-align: center; font-weight: bold; margin: 0;">説教「人生の分岐点」</p> <p style="text-align: right; margin: 5px 0 0 0;">日本基督教団 柿ノ木坂教会協力牧師 松下 恭規 牧師</p>
<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">6/26</div> <div style="font-weight: bold;">(日)</div> <div style="font-size: 0.8em;">AM 10:30~</div>		<p style="text-align: center; font-weight: bold; margin: 0;">説教「自分の家に帰りなさい」</p> <p style="text-align: right; margin: 5px 0 0 0;">日本基督教団 梅ヶ丘教会牧師 広田 叔弘 牧師</p>

教会報編集委員会

井澤 浩一

1. 教会報の歴史

渡邊先生の時代になって、貴重な資料が散逸しないよう、過去発行された月報・教会報の合本が、当時の宮崎神学生の手で作られました。

抜けている号も若干ありますが、これを見ると、第1号は「月報」として1970年、小川貞昭先生の時代に発行されています。「月報」とはいつても、結構発行間隔が開いていることも多くありました。当時担当されていた教会員は分かりませんでした。

長く教会報を担当されていた赤木姉によると、姉妹は1974年ころから、アメリカ在住期間をばさんで、都合30年ほどにわたって携わっておられたとのこと。赤木姉が不在の間と、帰国後のしばらくの間は故大田政二兄が担当されていました。

不定期刊になっていた「月報」は、1990年の51号から「教会報」と誌名を変えています。勝田先生が変更の経緯と、なにかいい名前を提案してほしいと書いておられますが、現在も教会報のままです。

また、2002年の91号からは縦書きが横書きに変わり、現在に至っています。

なお、横書きになるまでの長い期間、故龍沢啓子姉がパソコンで版下まで作成してくださり、赤木姉が原稿を整えること、校正、印刷屋とのやり取りを担当しておられたとのこと。龍沢姉ができなくなって、赤木姉が入力することになったとき、数字の入力が大変で、横書きに変更したと言うのが経緯だそうです。

井澤が引き継いだのは、渡邊先生が主任担任として着任された2010年度からです。

2. 教会報とは

教会報とは何でしょうか。以前から個人の興味で各教会の教会報、月報を集めていました。

井澤が担当することになったとき、手元にあった28教会の教会報や月報の内容を表にしてみました。ほとんどの教会が、はじめに牧師の巻頭言・説教を掲載しています。

以下、教会員の証や随想、会員のたより、行事の予告や報告などと、ほぼ共通しています。長老会（役員会）だよりや会計報告、献金者氏名が掲載されているところもあります。

また、牧師館だよりといった牧師のコラムがあるものもあります。まとめてみると、

①伝道的、教育的役割：説教やカテキズム（教理問答）、聖書講解、信徒の証など。

②教会内外への広報的役割：行事案内や行事報告など教会活動を示すもの。

③教会内の公報的、牧会的役割：長老会報告や、会計報告、教会員の動静や交わりなど。

この内①②は伝道トラクト（小冊子）的要素、③は教会内への公報的要素を持っており、柿ノ木坂教会もほぼ同様の内容となっています。

そこで、井澤が引き継ぐことになったときも、渡邊先生、前任の赤木姉、そして、編集委員のみなさんのご意見を伺いつつ、以下のような構成でスタートしました。

すなわち、牧師説教、カテキズム、会員の証、教会の活動がわかる行事予定や報告伝道など、トラクトとしても用いられるような部分（A版）と、長老会だより、会計報告、集会統計、会員消息を掲載する教会員向けの部分（B版）とに分けて、A版を後述のように現在の教会報の配布先へ。A版の間にB版を挟み込んだものを現在の月報の配布先へとする構成にしました。

また、教会ホームページのリニューアルを機に、教会員でもホームページをご覧になっていない方が多い現状を考え、ホームページに掲載されている牧師の教会外の人を想定した分かりやすい巻頭言を、教会報上にも掲載するようにいたしました。

その後渡邊先生からのご提案があり、2013年12月から、旧来のA版とB版を独立させ、A版を「教会報」として隔月刊、B版を「月報」として毎月発行としました。

教会報でもう一つ大事なことは、読みやすくすることです。字体、文字サイズ、文字間隔、行間隔を適切に、そして、文字ばかりのページを

減らし、写真などを入れてリズムを作る。一つの原稿は可能な限り左右見開きに、また新しい項目はページの頭から始めるなど工夫をしていますが、なかなか思うようにはできません。

A4版にするとゆとりが生じますが、扱いやすいサイズであることなどからB5版を踏襲しています。手元にある28教会でもB5版が64%、A4版が28%でした。

3. 編集委員会の作業

教会報編集委員会は現在、井澤浩一、石丸恵彦、上田昌紀、辻智子、堀田真紀子（五十音順）の5名。編集レイアウトをほぼ井澤、集会統計原稿作成を石丸、校正は全員で行いますが、特に堀田、辻のお二人が校正の達人です。

編集委員のメンバーは他の委員会も兼任しており、全員で集まれる日が取れず、従来とおりの基本的にはメール上で委員会を進めています。

教会報は8ページ、月報は4ページ建てが原則です。年度の初めに年間の編集スケジュールを作成しています。

1) 教会報発行の流れ

- ①企画
- ②原稿執筆依頼
- ③原稿入手（原則メールで、手書き原稿も可）
- ④編集作業：Word文書としてレイアウト編集、市販の編集ソフトは高いので、Wordで。
- ⑤校正作業：全員で行います。
- ⑥印刷データの送付：校了後、印刷用に写真を白黒に、全体を「プレス品質」のPDFに変換し、印刷会社へデータ送付、同時に印刷部数なども連絡します。印刷会社はデータ確認後、印刷製本。配布作業を行う前日までに納入。
- ⑦配布作業：発行日前日夕方から作業。・週報ケースに、・牧会委員会が会員などに週報などと共に送るため、指示されたその時々部数を、指定の箱に、・受付と礼拝堂後ろのラックに、・永久保存用2部をファイル。・残部を予備用として保管。
配布先は、教会員と元柿ノ木坂教会におられた教職方、幼稚園教諭などです。
- ⑧ホームページへの掲載：ホームページ版の写真はカラーです。ホームページは不特定多数の人が見ることができるので、執筆依頼をするとき、ホームページ掲載の可否をお尋ねしています。さらに写真は、ある意味公人であ

る牧師などは別として、一般教会員などは削除するか、個人を特定できないようにボカシ処理をして公開。なお、教会の玄関先に、「教会案内」や「こころの友」など、通る方々が自由に取れるように、ポストが下がっていますが、教会報は入れていません。教会内でお配りする教会報は、写真にボカシを掛けてないからです。ホームページ版も印刷できればいいのですが、費用の点から今後の課題です。

教会報の今後の課題と云えば、印刷費の削減があります。ネット印刷の普及で価格破壊が起こっていますが、その品質には注意が必要です。完全な版下の送付が必須で、これを担当する人の技術が必要です。現委員会では可能なのですが、担当が変わったときのことを考えると、変更躊躇しています。

2) 月報発行の流れ

- ①原稿収集：その月の長老会が終った週半ばまでに、長老会で承認された前月の議事録の要約を、書記長老が、また、同様に承認された会計報告を会計長老がExcelデータで提出、さらに石丸恵彦さんが前月の集会統計をまとめ、これもExcelデータで提出してきます。
- ②編集作業：月報も同様にWordで編集します。原稿を月報のテンプレートの中に入れ込むのですが、長老会だよりを原則2ページに収めるため、行間隔、場合によっては文字間隔などを調整します。
会計報告と集会統計はExcelの表をWord文書に貼り付けられるように変換します。さらに教会員消息などを週報より転載し、編集を終えます。
- ③校正作業
- ④印刷と配布作業：校了後、発行日前日の夕方、教会の印刷機で印刷。そして折り作業。現在は手作業ですが、時間と労力が結構大変なので折り機の導入が望まれます。そして、教会報同様配布作業を行います。月報は原則として教会員のみ配布するので、配布先が教会報とは異なります。

以上が編集委員の作業内容です。結構いろいろな方の手間がかかっていますので、みなさま、どうぞ教会報や月報をお手にされたら、よくお読みくださるようお願いいたします。

「み言葉のちから」

くらねみ
倉次 秀夫

あなたの好きな讃美歌は何番ですか。と聞かれてもすぐにこれ！っというように答えられる人はいないのではないだろうか。好きな曲は、その瞬間その瞬間で変わるのではないか。また、たくさんの讃美歌を知っているほど、1つに決めるのも容易ではない。讃美歌でなくても、楽しいときに聞きたい曲、さびしい時に聞きたい曲、元気がないときに聞きたい曲、眠くなってしまうても車の運転をしなくてはならないときに聞きたい曲。好きな歌というか、聞きたい歌はそのときに変わってくる。

私が通った中学校はキリスト教主義の学校であったため、そこで初めて「讃美歌・讃美歌第二編」を手にした。1973年3月31日 12版発行と記されているもので、値段は800円。現在書店で売られているものは、2015年2月1日 254版となっていることを考えると、相当昔の代物である。学校での礼拝はもちろんのこと、キャンプのとき、クリスマスとき、修養会のとき、いつもこの讃美歌を持って行く。クリスマスに教会から出発するキャロリングでろうそくを使った際には、わざと歌った讃美歌のページに蠟をたらしたこともあった思い出の詰まった讃美歌だ。もちろん今も手元にあり大切にしている。教会では讃美歌21を採択しているが、好きな讃美歌はと聞かれるとやはり慣れ親しんでいる二編付の讃美歌から挙げることであろう。

あれはちょうど私が車の免許取りたての大学1年生の頃だったろうか。その当時、柿ノ木坂教会は、たまプラーザ駅からすぐのところにある美しが丘ルピナスマンションの一室で開拓伝道（当時 前川伝道師）を行って

た。そこでの夕拝に出席するために、私の運転で坂上典子姉を乗せて教会から出発するときであった。他の青年会のメンバーから、好きな讃美歌は何番なの？と聞かれて送り出されたことを今でも鮮明に記憶している。きっと私のお別れのときに歌ってくれる讃美歌を聞いてくれたのであろう。しかし、残念なことにその際に「好きな讃美歌は何番」と答えただけが記憶にない。

この思い出の讃美歌を見ると裏表紙に聖句が書いてある。「その子を信ずる者は 永遠の命をもつ」と。これは中学校時代にクラブの修養会で神奈川県国民宿舎丹沢ホームに行った際、そこのご主人である中村芳男さんに書いていただいたものだ。この方は生涯を通じて「自然が自然であるという当たり前のことが、人が生きていくために、特に子供たちにとって大切なものだ」という信念を持ち続け、丹沢の自然を守り通す活動をされた。残念ではあるが、すでに亡くなられている方である。昔は教会の牧師だったようだが、自分たちの子供だけでも育てるのが大変な戦時中の時代に、戦災孤児を預かりこの丹沢の山に住み着き、その数はのべ300人くらいになったと聞いた。戦災孤児のみにとどまらず、山に逃げてきた犯罪者も受け入れたとのことであつた。当時奥様は犯罪者と寝食を共にすることに恐怖を覚えていたことも伺った。この山の奥で炭焼きをして生計を立てていたようで、そのほかは鹿の肉や川にいる魚をとって食とした話であつた。

あるとき、中村先生はキリスト教の教えを街で説いていたところ、渋谷警察に捕まってしまう牢につながれた。自分がいなくては丹

沢にいたくさんの家族が路頭に迷ってしまったので、もう、牢屋の中ではうろうろして涙を流し、ただただ、おろおろとすることしかできなかった。そこで、立ったまま祈り、聖句を口ずさみ、賛美の声を上げたということだ。牢番からは黙れ、黙れと言われたようだが、目を開けることができないくらい涙を流し、同じ讃美歌を何度でも何度でも繰り返し歌ったと言うことだ。その讃美歌は285番「主よみ手もて」ということ。私は中学校3年生のとき、この話を中村先生からは1度聞いたきりなのだが、不思議と未だに覚えている。そして、この中村先生は涙ながらにこう言ったのだ。「もう少し色々な歌える讃美歌を覚えておけば良かった。たくさんの聖句を暗唱出来ていれば良かった。」と。重みのある言葉だった。

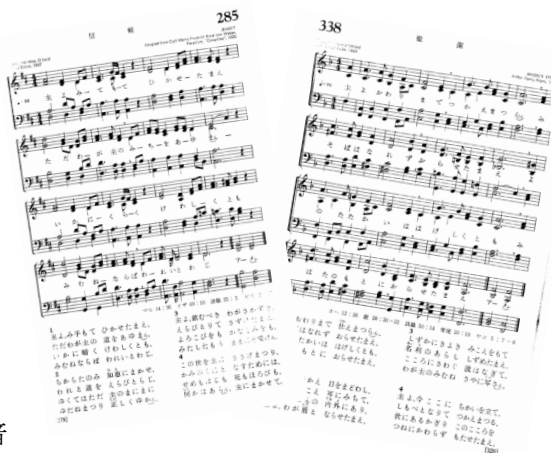
讃美歌の歌は力のある歌。聖書は力あるみ言葉であることは、事がある度に聞いている。中学生の自分にはあまり実感はなかったのだが、この話を伺ったときには、何かのときには必ず力になるということが分かった気がした。さらに私は、中村先生にあなたの好きな聖句はありますか。と尋ねられた。さんざん考えた末に聖書をもって、このヨハネの3章の聖句を伝えたと思う。それで、聖書ではなく讃美歌にこの聖句を書いてもらったのである。「その子を信ずる者は 永遠の命をもつ」

そのときは、単に短い聖句で書いてもらい易かったから選んだのかも知れない。すぐに聖書のどの箇所にかかれていたのかも分からなくなってしまったことを思い出す。しかし今、その思い出とともに聖句を読み返してみると当時の記憶がよみがえる。

讃美歌も同様である。讃美歌は338番「主よ、終わりまで仕えまつらん」を歌うと思いが出ることがある。それは、自分の結婚式の際に歌った讃美歌である。そのときの自分の気持ちであったり、そのときの情景まで思い出とともに見事によみがえる。単に、その頃は良かったとか、今とは違うといった感覚ではない。それは、神さまに対してどのような思

いでいたのか、今はどうなのかということであり、自分を素直に見つめることができる気持ちにならせてもらえる。礼拝では讃美歌を歌い、聖書を読むが、神様と対話する時間が与え

られているこの生活は最後の日まできちんと続けられるのであろうか。そして、1つでも聖書の言葉を多く覚え、1曲でも多く歌える讃美歌があるのであれば、あとはただ信じるだけである。



集会出席統計(月平均)

	2016年	
	3月	4月
主日礼拝	93.5人	84.8人
聖書と祈り会	16.2人	15.8人
教会学校*	103.3人	104.5人

* 保護者、教師を含む

	3月6日	4月3日
聖餐夕礼拝	11人	10人

第1主日開催

今月のメッセージ

－ 5月のホームページ巻頭言から－

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。
月日がたってから、それを見出すだろう。
(新共同訳聖書・コヘレトの言葉第11章11節)

5月半ばを過ぎてやっと治まりました。花粉症です。今年も重い症状に悩んだ仲間もいれば、今年は軽いね、と喜んだ仲間もいました。わたしは昨年続き後者でした。

昨年は、症状が軽くなると聞いて試していたことがあって続けてみていました。けれども思わぬところに副作用が起ってしまいました。体重増という困った問題です。試していたことは続けられなくなりました。はたしてこの試みが症状を軽くするのに功を奏したのか、またそもそも体重増ということも、この試みゆえかということさえはつきりはわからずじまいです。確かに昨年は症状が軽く済みましたが、その後、体重はあまり変わっていません。

そこで今年は覚悟して、処方された薬を早めに飲みはじめました。これがよかったのかもしれない。目も鼻も具合が良く軽い症状でした。春のせっかくの桜、これまでは余り喜ばしい思いで見上げられず、外出も控えがちでしたが、今年はこのほかに桜を楽しみました。東京の桜も開花宣言からあまり暖かならず長持ちしたように思います。

ところが、花粉症、後半戦、前半で良い戦いを戦って油断しました。処方された薬が切れたところで少し早めに飲むのをやめてしまったことがいけなかったのかもしれない。症状が治まるのがいつもより長引き、5月半ばまでかかってしまいました。

花粉症に限らず、日常、さまざまなことで、健康、仕事、趣味や楽しみにおいても、わたしたちはあれやこれやを試みます。その度、帯に短し襷に長しと言ったように、あれやこれや経験します。伝道もそうではないか、と思います。福音が歓迎されることもあれば、拒否や無視にも遭うこともあります。何が良いか、わたしたちはすべてを計り知ることはできません。夜昼、寝起きし知らぬ間に種は成長します。伝道者がパンを流れに投げよと言ったように、使徒たちが聖霊に満たされて伝道を開始したように、愚直に、忍耐をもって、そしてなお大胆に福音を宣べ伝える他ありません。

6月、わたしたちの教会では伝道月間、すべての主日礼拝を特別伝道礼拝として献げます。ひとりでも多くの人たちに福音が届けられるよう、伝道に集中するわたしたちの祈りを、主が聞いてくださるよう願います。

(牧師 渡邊 義彦)

編集後記

- ・今度は熊本を中心に大きな震災。被災地、被災教会の方々のために祈ります。
- ・それぞれの方の賛美歌、聖書にまつわる話は、楽しく、また、心に響く何かがありますね。毎号を楽しみにしています。
- ・この月報が出される次の週から、伝道月間。ご友人、家族をはじめ、多くの方々をお迎えすることができるよう、祈り、お誘いしましょう。
- ・各委員会報告、今回は教会報編集委員会です。毎回のお願いです。頑張っている委員方のためにも、教会報へのご意見・ご感想をお寄せください。(井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規